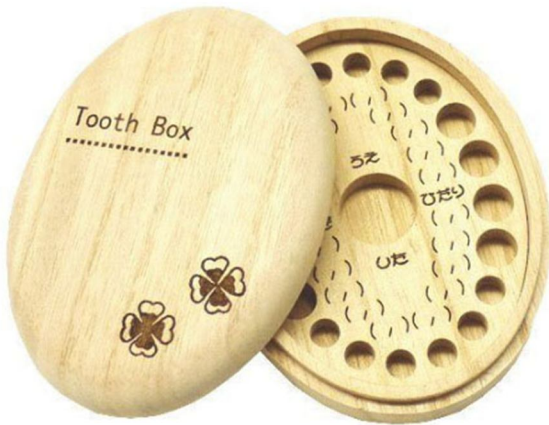


「抜けた乳歯カード・改良型 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私が子どもの頃は、「子どもの歯」(乳歯)が抜けると、上(上顎)の歯だと縁の下、下(下顎)の歯だと屋根に向かって投げたものである。従って私の乳歯は現存しない。最近はそんな習慣は消えたようだし、そもそもマンション住まいではそれもできない。

っと抜けたらしい。喜んで持ってきた。抜けたのは「右下顎第1乳臼歯(奥歯)」だった。



こんな美しい「乳歯ケース」というものも市販されている。歯の大きさに合わせて、孔の大きさも変えてあるのがすばらしい。(/)のところには、乳歯が抜けた日付を記入するのだろう。しかし、ほとんどの家庭には、こんな洒落たものはないはずだ。



私は、いつ誰から「乳歯相談」があってもいいように、このカード、ポリ袋それにボールペンを常に持ち歩いている。ポケットでは忘れることがあるので、IDカードのケースに2枚入れてある。抜けた歯の位置と形状を確認して、位置に○をつけ、日時や名前、年齢を記入してあげるのだ。この子は「お父さん、歯医者さんなの」と言ったので、ちょっと緊張した。



「抜けた乳歯カード」をリニューアルしてから、急に「患者さん」が多くなった。。この子は、数日前から「奥歯がグラグラしてる」といって、「早く抜けないかな〜」とイライラしていた。どうやら給食中にや



最後に抜けた乳歯とカードを、チャック付きのポリ袋に入れて「完成」。もちろん「乳歯ケース」にはかなわないが、ティッシュペーパーに丸めて持ち帰るよりはましだろう。翌日この子は「お父さんが、わかりやすいついて、びっくりしてた!」と話してくれた。